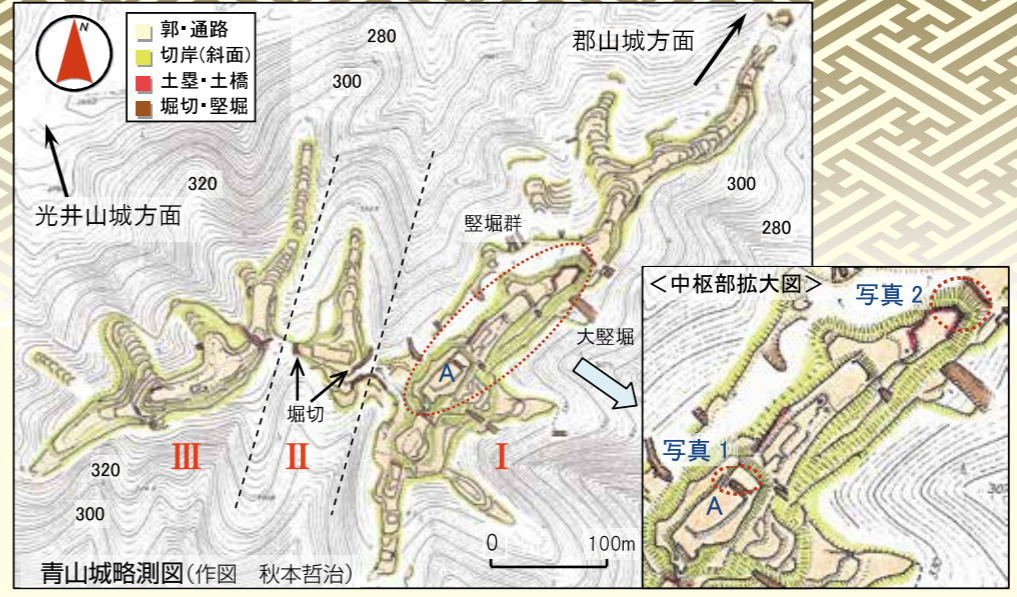


ボクは旅に行く時、「どこに行くか」や、旅先で「何をするか」という事よりも「誰と行くか」ということを大切にします。旅する友を心強く感じたり、些細なことで喧嘩をしたり笑ったり…。時には敢えて一人旅を選択しますが、これは自分自身と旅をする感覚でしょうか?

最近、なかなかそういう旅も出来なくなりましたが、芸備線百年の記事を編集しながら「旅」を恋しく感じました。(原田)

今月号では、久しぶりに6ページにわたる特集記事に挑戦しました。編集をしながら、市民の皆様や学校、市役所内での多くの人達の力添えがあって、一つの記事が作られていることを実感しました。(田村)

今月の表紙
芸備線は今年で開通百周年。甲立駅前の踏切を通過する芸備線の車両を、小田東小学校の児童たちが笑顔で眺めています。



考察
城跡：東西700m、南北500mに及ぶ広大な城域全体は、大きくI・II・IIIに分けられ(破線)、いずれも尾根上に細長く郭が続いています。Iは直線距離で600mを超える広範囲に多数の郭、土塁、堅堀、堀切等が残り、実戦を強く意識した工夫が見られます。特にその中枢部(右上の図)は最大の郭A中心に郭や切岸が丁寧に加工作れ直線的な形状で、城内の他の遺構とは異なる造りです。IIは南北150m余りで、東西に堀切を設け独立性の高い郭群です。IIIは中心部の加工が粗く、一方で派生した各尾根上に小さな郭を階段状に多数設けており、防壁より多数の兵を収容することを重視した構造です。この他、Iの北東方向の尾根続きにも駐屯地を思わせる平場があります。

考察
隣の光井山城を含めてもIの中枢部に最も労力を注いだことは明らかです。おそらく尼子軍の本隊が駐屯し、当主尼子詮久が彼の大叔父尼子久幸(この合戦で戦死)クラスの武将がいたと思われる。尼子軍がこれだけの規模の城を4ヶ月弱の間に築いたことは、相当数の兵が土木作業を担ったこととなります。また、毛利方にとっても青山・光井山城は脅威であったはずで、小競り合い程度の合戦が続き長期化したのもうなずけます。



中枢部の鋭い切岸 写真2(西側より撮影)



垂直に削られた郭A 写真1(北側より撮影)

この連載を通して重点的に紹介してきたのが、郡山合戦の際の陣地跡(陣城)です。今回の青山城で尼子・大内両軍の一連の陣城調査が完了し、その概要がほぼ把握できました。郡山城を含むこれらの遺構は、郡山合戦の実像に迫る史跡としてもっと知っていたいただきたい地域の宝です。



走り続けて 100才!
まだまだ頑張るぞ!

(今月の主な内容)
2~7
乗せて、つないで、100周年—芸備線開通100周年—

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/